

国際環境工学部 環境生命工学科 教育における三つの方針

学位授与方針 [学士(工学)]

- 知識・理解
 - 人間と「自然・環境」「思想・文化」「地域社会」「国際社会」「歴史」との関係性の総合的な理解、環境問題に関する正しい知識など、21世紀の市民として必要な教養を身につけている。【総合的知識・理解】
 - 数学・物理・化学などの自然科学に関する基礎学力と工学全般の基礎知識を身につけている。【専門分野の知識・理解1】
 - 生命科学、環境科学、環境マネジメント学を基本とした専門的知識を総合的に理解している。【専門分野の知識・理解2】
- 技能
 - 環境生命分野で必要とされる情報を実験や調査により収集・解析し、生態系や環境、社会に配慮しながら技術開発を進める技能を身につけている。【専門分野のスキル】
 - 英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。【英語力】
- 思考・判断・表現
 - 生物・生態系のもつ高度な仕組みを活用して、新機能的な材料、エコプロダクツ、エネルギーなどを創成する技術を提案することができる。【課題発見・分析・解決力】
 - 自分の考えを論理的に正しくプレゼンテーションできる。【プレゼンテーション力】
- 関心・意欲・態度
 - 環境生命分野における国際的な視野をもって広く社会に貢献することができる。【実践力(チャレンジ力)】
 - 自分自身で心身の健康の保持増進を行うことができる。【自己管理能力1】
 - 「人間全般」や自分自身についての省察を深め、自らの持つ可能性を見出し、将来のキャリア構築に向けて積極的・主体的に準備行動ができる。【自己管理能力2】
 - 技術が社会に及ぼす影響を理解し、社会的責任感と倫理観を身につけ、他者と協力しながら行動できる【市民としての社会的責任・倫理観】
 - 環境生命分野に関する問題意識を持ち、その解決に必要な専門的知識・技術の修得に向け、生涯にわたり努力することができる。【生涯学習力】
 - 地域や組織の中で相互に啓発し合い、他者と協力して課題解決に取り組める。【コミュニケーション力】

教育課程編成・実施方針

環境生命工学科では、教育目標を達成するため、以下の方針に基づき、教育課程を編成し、実施する。

- 「基盤教育科目」から32単位以上、「専門教育科目」から98単位以上を修得する。
- 「基盤教育科目」は、卒業後の生き方や社会での活躍を支える人間性・主体性・社会性の育成を目的とする科目群とする。「教養教育科目(人文・社会科目)」から16単位以上、「教養教育科目(環境科目)」から8単位以上、「外国語教育科目」から8単位以上を修得する。(詳細は別記)
- 「専門教育科目」は、生命材料化学、生物生態工学、環境マネジメントの3つの教育研究分野に関わる知識と技能を身につけるための科目からなる。「工学基礎科目」から25単位以上、「専門科目」から65単位以上、「卒業研究」から8単位を修得する。
 - 工学基礎科目
3つの教育研究分野共通の基礎となる化学、生物、物理、数学の専門知識・技能について、座学の講義や学生実験・演習を通じて1年次から3年次まで積み上げ方式で学ぶ。
環境生命工学分野での社会的責任感・倫理観の醸成、また、プレゼンテーション能力・コミュニケーション能力の強化を同時に行う。
必修科目を含め、25単位以上を修得する。
 - 専門科目
1つの教育研究分野を選択し、知識・技能を高める。課題発見・解決能力、実践力の養成を重視する。
また、発展的な課題を扱う科目を配置し、就職・進学後の継続的な学習に備える。必修科目、選択必修科目を含め65単位以上を2年次から3年次の間に修得する。
各教育研究分野に適した科目の取り方を修得モデルで例示する。
 - 卒業研究
4年次の卒業研究において、研究活動への参画を通じ、座学の講義や学生実験・演習で学んだ知識・技能を実際

に運用可能な水準まで高める。通年で8単位を修得する。

入学者受入れ方針

環境生命工学科では、次のような学生を求めています。

- 明確な目標を持ち、そのための努力を惜しまず、常に自らの能力向上を図る意欲のある学生
- エネルギー・環境問題に関心を持ち、その解決のために工学を応用する意欲を持っている学生
- グローバルな視点から“ものづくり”技術の発展に貢献したいという意欲を持ち、その基盤となる数学、物理、化学、生物などの基礎学力を持っている学生
- 日本語と英語を基礎としたコミュニケーション能力を持っている学生
- 生物のもつ高度な仕組みを活用した新しい技術の創出を目指すため、生命科学と化学に関心を持ち、バイオテクノロジー、生態保全、環境マネジメントに取り組む意欲を持っている学生